

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会 取組報告

- ・国・県・市の3機関合同による排水ポンプ車配置・操作訓練 開催結果……………1
- ・ R6重要水防箇所合同巡視 開催結果……………2
- ・ 広域避難計画に関する勉強会 検討状況……………4
- ・ タイムラインを活用したロールプレイング型図上演習 開催結果……………7

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会 「国・県・市の3機関合同による排水ポンプ車配置・操作訓練」を開催しました！

令和6年 5月23日
(国・秋田県・大仙市)

1. 概要

- 本現地視察は、雄物川圏域内の関係機関で共有し情報交換の場として活用するほか、得られた情報を基に流域内に広く展開して頂き、あらゆる関係者による減災対策の更なる推進・実践していくものであります。
- 今年度最初の現地視察では、大仙市福部内川遊水地で取り組んだ内水氾濫への対策訓練状況を現地視察するものであります。

- 日時：令和6年5月23日(木) 9:30～11:30
- 現地視察箇所：福部内川遊水地(大仙市大曲須和町地内)
- 出席者：秋田県仙北・平鹿・雄勝・由利地域振興局
大仙市
美郷町
湯沢河川国道事務所
成瀬ダム工事事務所
計35名参加
- 次第 進行：事務局 秋田県仙北地域振興局 建設部 保全・環境課
 1. あいさつ(秋田県仙北地域振興局建設部 保全・環境課 鈴木課長)
 2. 福部内川水門稼働・排水ポンプ車配置・操作訓練
 3. 講評



↑ 排水樋管の操作訓練状況



↑ 国土交通省・秋田県・大仙市による排水ポンプ車配置訓練状況

【大仙市における過去の水害について】 10ヶ月間で3回の水害に！

- ・平成29年7月22日からの大雨災害(災害救助法適用)
- ・平成29年8月24日からの大雨災害
- ・平成30年5月18日からの大雨災害



↑ 近年大きな洪水が発生し、合わせて内水氾濫も生じた(花火大会前の洪水状況)

あいさつ



↑ 秋田県仙北地域振興局 鈴木課長

・昨年7月の大雨により、秋田市街地が甚大な浸水被害を受けた。気候変動の影響により、いつどこで起こりえるかわからない状況であることから、しっかりとした備えが必要であり、今後も国・県・市3機関による排水ポンプ車配置・操作訓練を継続していくことが重要である。



↑ 福部内川水門の遠隔操作訓練状況



↑ 排水ポンプ設置状況

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会
「湯沢河川国道事務所管内 R6重要水防箇所合同巡視」を開催しました！

令和6年5月21・22・28日

【湯沢・雄勝地区(湯沢市、羽後町)】

開催日 : 令和6年5月22日(水)(13:30～16:30)

出席者 : 湯沢市(水防団、消防本部、防災関係職員)、
羽後町(水防団、消防本部、防災関係職員)
秋田県雄勝地域振興局、湯沢河川国道事務所〔合計26名〕

点検箇所: 重要水防箇所12箇所を合同巡視

【湯沢市職員のコメント】

具体的な説明でよく理解でき、情報共有できたと感じている。



湯沢市水防団員、関係機関との合同巡視の様子

【横手・平鹿地区(横手市)】

開催日 : 令和6年5月28日(火)(13:30～16:30)

出席者 : 横手市(副市長、水防団、消防本部、防災関係職員)、
秋田県平鹿地域振興局、湯沢河川国道事務所〔合計46名〕

点検箇所: 重要水防箇所7箇所を合同巡視

【副市長のコメント】

改めて危険な箇所のことを共有できたと感じている。

県や国と連携して、速やかに情報を伝達し、住民の安全を守っていく。



説明を受ける横手市・村田副市長(左から1人目)

【大曲・仙北地区(大仙市)】

開催日 : 令和6年5月21日(火)(9:30～15:00)

出席者 : 大仙市(副市長、水防団、消防本部、防災関係職員)、
秋田県仙北地域振興局、湯沢河川国道事務所、
玉川ダム管理所〔合計66名〕

点検箇所: 重要水防箇所9箇所を合同巡視

【副市長のコメント】

洪水時の水防工法、避難について確認し、梅雨入り前に共有できた。
市民の安全を図るため、皆としっかりやっていきたい。



説明を受ける大仙市・今野副市長(左から2人目)

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会 「秋田河川国道事務所管内 R6重要水防箇所合同巡視」を開催しました。

令和6年5月24日
国・秋田県・秋田市
秋田市消防本部

開催日：令和6年5月24日（金）9:00～12:00

出席者：秋田市、秋田市消防本部、水防団

秋田県秋田地域振興局

秋田河川国道事務所

点検箇所：重要水防箇所8箇所の合同巡視

激特區間の堤防整備状況

新設した陸閘、樋門樋管の確認

重要水防箇所確認



陸閘確認



「道路管理者と陸閘管理者の合同操作訓練」を実施しました。

令和6年7月10日
国・秋田県

開催日：令和6年7月10日（水）13:00～15:00

参加者：[道路管理者] 秋田県秋田地域振興局

[陸閘管理者] 国交省秋田河川国道事務所

訓練場所：向野陸閘（秋田市雄和向野字牛ノ首）

※国道341号上に建設

訓練内容：道路通行規制の手順確認

道路管理者と陸閘管理者の連絡事項確認

陸閘閉鎖訓練

陸閘閉鎖完了時



陸閘閉鎖開始時



雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会 「広域避難計画に関する勉強会」 検討状況

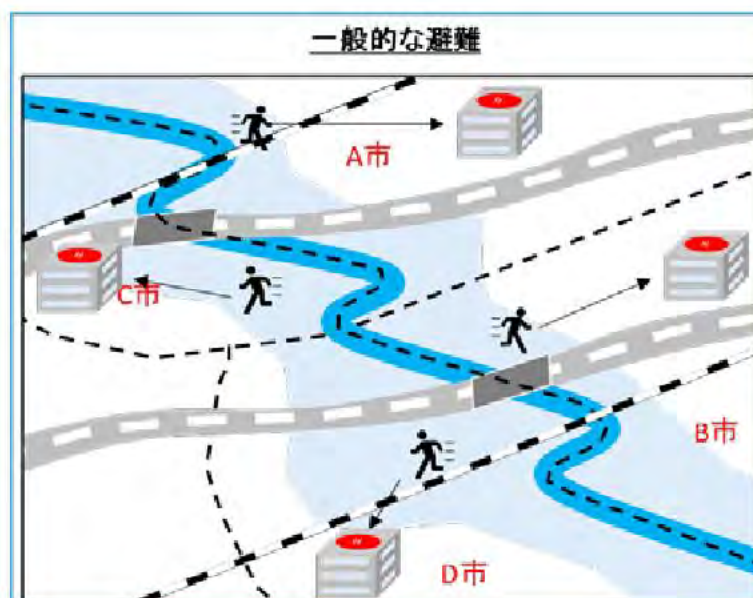
(国・大仙市・横手市・美郷町)

➤ 隣接市町村間の避難計画の策定～広域避難体制の構築～

- 想定最大規模の浸水が発生した場合、避難所が活用できない、収容可能数の超過等により自市町村では完結できない困難状況が生じる恐れがある
- 隣接市町村間で連携し避難を円滑に実施できるように広域避難体制を構築

防災対策の取組の方向性

避難のイメージ



◀ 広域避難体制構築に向けたWEB会議システムによる第1回広域避難勉強会の実施状況
 (横手市、大仙市、美郷町、湯沢河川国道事務所)



◀ 第2回広域避難勉強会では具体的な広域避難者数の把握について検討
 (横手市、大仙市、美郷町、湯沢河川国道事務所)

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会

「第3回 広域避難勉強会」を開催しました！

令和6年7月3日

1. 開催日／実施状況

- 日 時：令和6年7月3日（水）
- 場 所：WEB会議システム
- 出席者：横手市：危機対策課 斎藤係長、武田主任
 大仙市：総合防災課 高橋課長、吉川参事、佐藤主幹、本間主査、伊藤主査
 美郷町：住民生活課 佐藤上席主査、高橋主任
 事務局（湯沢河国） 岩沢副所長、穂積流域治水課長、清水川建設専門官、
 青田専門調査官、吉田係長、高橋係長、千葉技官



(1) 広域避難計画策定に向けた勉強会 検討状況

・横手市、大仙市、美郷町、湯沢河川国道事務所の4者にて2回勉強会を実施し、これまでの勉強会を踏まえ、各自治体における地区内・外から受け入れられる避難者数や避難先の確定作業を進めるとともに、隣接する2市1町における避難の連携行動を示した計画案の検討を進めることとした。

(2) 第3回検討内容

- ・事務局にて、各自治体における避難ブロック、避難者数を分類ごと一覧表に整理し、図面に落とし込みを行った。
- ・本検討資料により、広域避難する自治体は大仙市、避難先の自治体は横手市及び美郷町となることを確認した。

(3) 広域避難計画策定に向けての進め方(案)

- ・内閣府「水害からの広域避難に関する基本的な考え方」をもとに、次回以降の検討の進め方について事務局より説明を行った。
- ・具体的な避難判断基準や避難開始時間等について、今後確認していくこととした。

2. 議事、意見について

【横手市】

- ・大災害時には雄物川だけでなく県管理河川の横手川等も氾濫している状況と思われるため、検討資料の避難所受入可能人数は減る方向と推測される。
- ・本検討資料については、雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会におけるモデルケースとして検証できればよい。

【大仙市】

- ・広域避難に関する経費については自前で対応することとなるが、逆パターンも考えられることから、3者協議が必要と考えている。
- ・広域避難計画については、大仙市地域防災計画の中に取り入れることで検討している。

【美郷町】

- ・美郷町の受入可能人数については今後精査していくこととなると思われるが、受入体制をとるには備蓄品や施設整備等進めていくことが必要である。

- ・本検討内容については、雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会の検討項目に含めて、協議会加盟の市町村において協定締結することも考えられる。

3. 今後について

- ・今後の広域避難勉強会については、広域避難計画(案)を作成する際の必要最低限の項目(避難場所の指定、運営方法、費用負担等)を検討する。
- ・引き続き、広域避難の検討を進めていくため、不明な点や必要な追加検討項目等があった場合には、事務局に連絡を頂きたい。

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 作業部会

「第4回 広域避難勉強会」を開催しました！

令和7年1月24日

1. 開催日／実施状況

- 日 時 : 令和7年1月24日(金)
- 場 所 : 大仙市総合防災課隣 会議室
- 出席者 : 横手市:危機対策課 斎藤係長、武田主査
 大仙市:総合防災課 高橋課長、吉川参事、佐藤主幹、本間主査
 美郷町:住民生活課 佐藤上席主査、高橋主任
 事務局(湯沢河国) 穂積流域治水課長、清水川建設専門官、
 青田専門調査官、吉田係長、高橋係長



2. 議事、意見について

(1) 広域避難計画策定に向けた勉強会 検討状況

・横手市、大仙市、美郷町、湯沢河川国道事務所の4者にて、これまで3回勉強会を実施し、広域避難計画(案)作成に当たっての方向性や、国・各自治体の役割分担を確認するとともに、具体的な避難判断基準や避難開始時間、費用負担等について検討・調整を進めることとした。

(2) 第4回議事内容

- ・「災害時における秋田県及び市町村相互の応援に関する協定」が既に結ばれていることから、新たな協定の締結をしない方向性を事務局より提示した。
- ・他流域の事例をもとに、広域避難計画(案)作成に当たっての方向性や、国・各自治体の役割分担を再度確認した。
- ・広域避難者数を設定するために必要な自主避難者数や避難のリードタイムについて説明を行った。
- ・大仙市で検討した課題点等について意見交換を行った。

【大仙市】

- ・広域避難計画の大前提として、広域避難を発令するときの基準を検討する必要がある。(大仙市⇄横手市・美郷町)
- ・広域避難発令に係る自治体間の連絡体制(手続き方法)や、住民への周知方法、広域避難所への移動手段、広域避難所開設に要する費用負担の取扱などが課題となっている。
- ・想定避難先については詳細を今後検討していく。

【横手市】

- ・避難所によっては、自主的に避難する方のために優先して開設する避難所や、浸水状況によっては洪水時に使用できない避難所があるため、広域避難計画(案)で設定する避難所には留意が必要。

【事務局】

- ・災害救助法に基づく補償について、秋田県や他流域へ照会し共有する。

- ・今後について、横手市、大仙市、美郷町の3者でWGのような形で、受け入れ側の課題や問題点等について意見交換を進めていく。
- ・引き続き、事務局(湯沢河国)ではデータの整理などサポートをしていく。

3. 今後について

雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会

令和6年10月23日

「タイムラインを活用したロールプレイング型図上演習(雄物川危機管理演習)」を開催しました！

1. 概要

- 危機管理演習は、雄物川圏域の減災対策協議会における「雄物川の減災に係る取り組み方針」に基づき、大規模氾濫を想定した、ロールプレイング方式により行いました。
- 本演習は、今後の大規模氾濫時への備えとして、河川管理者と自治体が協力して作成した”避難指示等の発令に着目したタイムライン”の検証・改善および防災対応行動の確認・習熟を目的とし、今回は大仙市と湯沢河川国道事務所が合同で実施しました。

2. 開催日時・会場・スケジュール

- 日時：令和6年10月23日(水)
- 会場：湯沢河川国道事務所および大仙市役所
- 参加者：大仙市、秋田市、横手市、湯沢市、仙北市、美郷町、秋田地方気象台、JR東日本秋田支社、東北電力、秋田県(仙北地域振興局、平鹿地域振興局、雄勝地域振興局)、防災エクスパート、湯沢河川国道事務所 約110名参加
- スケジュール：

1. 開会・挨拶(湯沢河川国道事務所 松原所長)	13:00～13:05
2. 演習直前説明、初期情報の確認	13:05～13:15
3. ロールプレイング型図上演習	13:15～16:15
4. 演習後の意見交換会・講評	16:30～16:57
5. 閉会・挨拶(大仙市 老松市長)	16:57～17:00

3. 主要演習項目(※特に本演習で着目した項目)

- 収集した情報の迅速かつ的確な整理・共有・伝達
※関係機関等の状況把握、関係機関への情報伝達
- 今後の見通し分析および適切な状況判断
※河川管理者から自治体へ避難に寄与する助言・河川情報提供
※災害対策用機械による減災対応
- 住民に対する迅速かつ的確な避難支援・広報
- 河川管理者と流域自治体の緊密な連携

4. 演習場面

- 演習想定日時は、梅雨前線の発達に伴い大仙市域に大雨をもたらす気象状況の中、「2025年7月9日13時15分演習開始」とし、雄物川及び玉川等が急激に水位上昇する設定とした。
- 被災想定は、国で管理する雄物川や玉川の堤防漏水・水衝洗堀や溢水・越水のほか、大仙市内における内水被害などを想定した。時間の経過とともに、水位が上昇し、堤防が決壊に至り、大規模氾濫が発生する想定とした。



大仙市役所演習会場



湯沢河川国道事務所演習会場



ホットラインによる情報提供



リエゾンによる情報共有

6. 演習に対する感想等

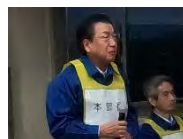


松原所長挨拶

- ・タイムラインに基づき、洪水予報や避難指示等の発表・発令タイミング、河川管理施設等の被害情報共有を検証し、大規模氾濫時における河川管理者と各自治体との防災行動の確認・習熟のために演習を行う。
- ・訓練したこと以上のことは出来ないと言われる。演習が大規模氾濫時の逃げ遅れゼロや被害最小化に向けた対応の一助になれるよう取り組む。

意見交換会での意見・講評

- ・氾濫危険水位を超える予測、避難情報等は、PC上で表示されていたが、大きな声での情報共有もあるとよい。
- ・水防活動や被害情報の状況を図面に書きこみする等、活用してほしい。
- ・最上川で警察官が殉職されたが、現場に出向くようなことがある場合は、自分の安全第一で行動してほしい。
- ・決壊情報は大仙市内では共有できていたが、湯沢河川国道事務所に対して情報共有できていなかった。
- ・大災害時には、広域避難、庁舎の機能移転等の検討も必要であるが、今後の課題となる。



老松市長挨拶

- ・今回の演習では、改めて、各関係機関との迅速な連携による情報伝達、それに基づく災害の初動対応の重要性を強く感じたところである。
- ・湯沢河川国道事務所と大仙市が連携し、相互の情報共有、外水・内水対応等を確認できたと思っている。本訓練を通じて得た成果を今後の災害発生時にはしっかり生かしたい。